

A-136 食品の色彩的嗜好に関する研究 そのI (着色あめ玉)
香蘭女短大 ○金子小千枝 青山よしの 塚洋子
福岡教育大 森重敏子

目的 食品の色彩によって食欲をそゝられたり、減退させられることはしばしば経験するところである。近來、食品の色の種類は多く、食品を選択するにあたり色に左右されることが多くなったと思われる。実際どんな色の食品が好まれる傾向にあるかを知る手がかりとして、着色あめ玉について色彩的嗜好の傾向について調べた。

方法 赤・オレンジ・青・緑・黄・紫・ひき茶・黒・無色の9色のあめ玉について自由に1つだけ選択させた。選択事由については、色・味・香等に関する六項目について質問紙に記入させた。対象は、幼稚園・小学・中学・高校・大学の男女で、都市・農村、夏・冬にわたって行った。

結果 全般的にみると、多く好まれた色は青とオレンジであり、次いで赤・緑・黄であった。ひき茶・紫・黒・無色は好まれないという傾向が見られた。学年別では、最も多く好まれているのは幼で赤、小・中では青、高では青・オレンジ、大ではオレンジであった。

幼・小・中では9色の色の選ぶ方にかた寄りが見られ、高・大は9色がやや平均的に好まれた。男女別では、幼・小においては男子に青が好まれ、女子に赤・オレンジが好まれた。季節別では、夏には青が多く、冬に黒が多く好まれる傾向が見られた。地域別では、農村に黄、黒、都市に赤が多く好まれた。選択事由については、小・中・高・大ともに赤・オレンジ・青・緑・黄を好んだものはおもに色に肉する理由で選ばれ、ひき茶・黒はおもに味に肉する理由によって選ばれた。感覚的理由で選ばれる傾向にあるものは青・緑・無色であった。総体的に色・味で選んだものが最も多かった。